

令和7年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
国語	論理国語	2	B	2

■目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか（目指す能力とその次元）

評価 の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させ たい基準	実社会に必要な国語の知識や技能を 身に付けるようにする。	論理的、批判的に考える力を伸ばすど ともに、創造的に考える力を養い、他者ど の関わりの中で伝え合う力を高め、自分 の思いや考えを広げたり深めたりすること ができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとど ともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を 向上させ、我が国の言語文化の担い手と しての自覚を深め、言葉を通して他者や 社会に関わろうとする態度を養う。
評価方法	課題確認テスト、定期考査、 課題テスト、小テスト、課題など	課題、課題確認テスト、定期考査、 小テスト、プレゼンテーションなど	課題、授業準備、授業態度、レポート、 小テスト、やり直し、プレゼンテーション、ノ ート提出など
割合	40%	30%	30%

■いつ、何を学ぶか（学習内容）

学期	学習内容
1学期	1 広がる風景 「対話とは何か」細川英雄 「世界をつくり替えるために」小林康夫 2 考えるてがかり 「少女たちのひろしま」梯久美子 「『ふしぎ』ということ」河合隼雄 [書く]資料を整理し、テーマを吟味しよう
2学期	3 人間と知性 「学ぶことと人間の知恵」広中平祐 「ラップトップ抱えた『石器人』」長谷川真理子 4 現実の中で 「思考の肺活量」鷲田清一 「安心について」廣淵升彦 [書く]仮説を立てて検証しよう
3学期	5 ものの見方 「弱肉強食は自然の摂理か」山田俊弘 「複数の『わたし』」松村圭一郎 6 働くよろこび 「はじめに『言葉』がある」堀畑裕之 「楽に働くこと、楽しく働くこと」小関智宏

■何で学ぶか（教材）

教科書：「新編論理国語」東京書籍
副教材：「新編論理国語 学習課題ノート」東京書籍
「常用漢字ダブルクリア」尚文出版

■どのように学ぶか（授業の方法／学び方）

- ①興味を持ち②疑問を持ち③考える 授業にする。
- ①学習の基礎となる語彙力を増やし、語感を豊かにするために、語句の意味調べをする。
- ②文章を読み、その内容などについて、批評したり討論したりする活動を取り入れる。
- ③設定した題材について多様な資料を集め、調べたことを整理して、様々な観点から自分の意見や考えを論述する活動を取り入れる。

令和7年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
国語	文学国語	2	B(文系)	2

■目標

「現代の国語」及び「言語文化」により育成された資質・能力を基盤とし、主として「思考力、判断力、表現力等」の感性・情緒の側面の力を育成する科目として、深く共感したり豊かに想像したりして、書いたり読んだりする資質・能力の育成を目指す。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか(目指す能力とその次元)

評価 の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させ たい基準	生涯にわたり他者や社会と関わっていく社会生活において必要な国語の知識や技能について理解し、それを適切に使うことができるようにする。	文学的な文章や作品などを書いたり読んだりして、その内容や表現等を吟味したり評価したりすることなどを通して、言葉の適切さや美しさなどを判断する感覚を洗練し、自らの言葉に対する感性を磨く。また、他者の考えと自分の考えを吟味したり検討したりすることを通して、自分で新しい考えや発想を生み出す力をつける。	言葉によって自分の考えを形成したり新しい考えを生み出したりすること、言葉から様々なことを感じたり、感じたことを言葉にしたりすることで心を豊かにすること、言葉を通じて他者や社会と関わり自他の存在について理解を深めることを目指し、現代社会に関わる話題や問題に幅広く関心をもち、生涯にわたる読書習慣の基礎を築き、社会人として、考えやものの見方を豊かにする。
評価方法	定期考査、課題、小テスト、小論文、プレゼンテーションなど	定期考査、課題、小テスト、小論文、プレゼンテーションなど	定期考査、課題、小テスト、小論文、プレゼンテーション、授業準備、授業態度など
割合	40%	30%	30%

■いつ、何を学ぶか(学習内容)

学期	学習内容
1学期	現代の小説(一) いしいしんじ『調律師のるみ子さん』 江國香織『デューク』 現代の小説(二) 内海隆一郎『相棒』
2学期	随想<芸術> 観世寿夫『花のいざない』 近代の小説(一) 夏目漱石『こころ』 芥川龍之介『鼻』
3学期	戦争と文学(一) 『バグダッドの靴磨き』米原万里 『わたしが一番きれいだったとき』茨木のり子 『死んだ男の残したものは』谷川俊太郎

■何で学ぶか(教材)

教科書『高等学校 標準文学国語』(第一文国710)
準拠ノート『標準文学国語 学習課題集』

■どのように学ぶか(授業の方法／学び方)

本文の読解に留まらず、教科書を読んで感じたこと、考えたことなど生徒自身の思いを表現する機会を多く設ける。また、自分と他人の文章や発表を比較し、吟味したり検討したりすることを通して、考え方やものの見方を豊かにする。

令和7年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
国語	古典探究	2	B	2

■目標

古典を主体的に読み深めることを通して伝統と文化の基盤としての古典の重要性を理解し、自分と自分を取り巻く社会にとっての古典の意義や価値について探究する資質・能力の育成を目指す。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか（目指す能力とその次元）

評価 の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させ たい基準	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
評価方法	定期考査、課題、小テスト、小論文、プレゼンテーションなど	定期考査、課題、小テスト、小論文、プレゼンテーションなど	定期考査、課題、小テスト、小論文、プレゼンテーション、授業準備、授業態度など
割合	40%	30%	30%

■いつ、何を学ぶか（学習内容）

学期	学習内容
1学期	(古文) 1 説話に親しむ『十訓抄』大江山の歌 (漢文) 1 故事と小話「蛇足」「畏饅頭」
2学期	(古文) 2 随筆を読む 『徒然草』丹波に出雲といふ所あり 『方丈記』ゆく河の流れ (漢文) 2 唐詩と文「雑説」 3 史記を読む「項羽と劉邦」
3学期	(古文) 5 日記を読む 『土佐日記』帰京 『更級日記』門出／物語 (漢文) 4 中国の知恵「寓話」 5 三国志の世界「十八史略」

■何で学ぶか（教材）

教科書『新編 古典探究』（東書古探701） 準拠ノート『新編古典探究 学習課題ノート』 『新明説総合古典文法』 『新明説総合古典文法 基礎練習ノート』 『漢文の習得』 『入試対策ベストセレクション 古文単語325』
--

■どのように学ぶか（授業の方法／学び方）

文法書や辞書、タブレット等を駆使して、生徒が主体的に学習を行っていく。

令和7年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
地理歴史	歴史総合	2	B	2

■目標

近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるように指導する。また、近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察したことを効果的に説明したりする力を養う。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか（目指す能力とその次元）

評価 の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象を基に、それらが日本や日本周辺の地域及び世界の歴史と繋がっていることを理解する。 資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解する。	近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と関わらせて、日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性について考察し、自分の考えを表現することができる。 複数の資料の関係や異同に着目して、資料から読み取った情報の意味や意義、特色などを考察し、表現できる。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、わが国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについて自覚する。
評価方法	定期考査（知識分野） 準拠ノート整理（知識分野）	定期考査（思考・判断分野） 準拠ノート整理（思考・判断分野） 小論文（600字程度）	課題（歴史総合演習ノート） 小論文（600字程度） 授業の出席状況
割合	40%	30%	30%

■いつ、何を学ぶか（学習内容）

学期	学習内容
1学期	第1編 近代化と私たち 第1章 近代化への胎動 第2章 欧米の市民革命と「西洋の衝撃」 （例）アメリカ独立戦争・フランス革命 第3章 欧米諸国と日本の国民国家形成 （例）ドイツ統一・自由民権運動 第4章 帝国主義の時代へ（例）日清戦争・日露戦争
2学期	第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第5章 第一次世界大戦と大衆社会（例）ロシア革命 第6章 経済危機と第二次世界大戦 （例）世界恐慌・日中戦争・日本占領・朝鮮戦争
3学期	第3編 グローバル化と私たち 第7章 冷戦と脱植民地化（例）ベトナム戦争 第8章 多極化する世界（例）石油危機） 第9章 グローバル化と現代世界

■何で学ぶか（教材）

教科書『歴史総合』（実教出版歴総704）
準拠ノート『歴史総合演習ノート』（実教出版）
DVD（例）『映像の世紀』（NHKエンタープライズ）

■どのように学ぶか（授業の方法／学び方）

単に説明を聞き、暗記することで機械的に問題を解くのではなく、歴史に関する資料のデータを分析・整理して問題の本質を理解し、適切に判断する力や、周囲と協働できる力、更には歴史的背景を視野に入れて考察できる公民として必要なスキルを身に付けること。
またタブレットを利用して、教材にはない資料や記事等を紹介し考察させることで、理解を深める。
コの字型の一斉授業ならびに3～4人のグループによる考察を深める作業を行う。

令和7年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
公民	公共	2	B	2

■目標

現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的に活動するために判断する材料となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。また、現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な立場をふまえるべき基本的原理を認識して、事実をもとに多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか（目指す能力とその次元）

評価 の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解する。 選択・判断の手がかりとして、個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解する。	社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察しながら判断し、表現できる。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、日本ならびに各国の主権を尊重し、平和と繁栄を図ることの自覚を深める。
評価方法	定期考査（知識分野） 準拠ノート整理（知識分野）	定期考査（思考・判断分野） 準拠ノート整理（思考・判断分野） 小論文（600字程度）	課題の提出状況 小論文（600字程度） 授業の出席状況
割合	40%	30%	30%

■いつ、何を学ぶか（学習内容）

学期	学習内容
1学期	第1部 私たちが作る社会 第3章 私たちの社会の基本原則 第1節 社会の基本原則と憲法の考え方 重要用語確認問題 演習問題 第2部 社会の仕組みと諸課題 第1章 私たちと法 第1節 法の意義と司法参加
2学期	第2章 私たちと政治 第1節 民主社会と政治参加 第2節 国際政治の動向と平和の追求 重要用語確認問題 演習問題 第3章 私たちと経済 第1節 市場経済の仕組み
3学期	第2節 豊かな社会の実現 第3節 国際経済の動向と格差の是正 重要用語確認問題 演習問題 総合問題

■何で学ぶか（教材）

教科書『高等学校 公共』（帝国書院公共707） 準拠ノート『高等学校公共ノート』 DVD『映像の世紀』（NHKエンタープライズ）
--

■どのように学ぶか（授業の方法／学び方）

単に説明を聞き、考え方を暗記することで機械的に問題を解くのではなく、新聞などのデータを分析・整理して問題の本質を理解し、適切に判断する力や、周囲と協働できる力、更には社会参画を視野に入れた公民として必要なスキルを身に付けること。 またタブレットを利用して、教材にはない資料や記事等を紹介して考察をさせたりすることで、理解を深める。 コの字型の一斉授業ならびに3～4人のグループによる考察を深める作業を行う。

令和7年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
数 学	数学Ⅱ・B・C	2	B	2+2+1

■目標

- 1 図形と方程式、いろいろな関数、数列、ベクトル、微分・積分の考え方を理解し、基礎的な知識を習得する。
- 2 事象を数学的に考察し処理する能力を身につけ、それらを活用するようになる。
- 3 数学的な見方や考え方の良さを知る。
- 4 進学に対応できる標準的、発展的な学力を身に付ける。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか(目指す能力とその次元)

評価 の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させ たい基準	●学習内容を理解する。 ①教科書の各単元の基本例題、練習問題を解き、その解法を理解する。 ②公式を理解する ③公式や技法を習得する	●応用例題や発展問題、章末問題を考察したり、解法を理解したりする。 ①応用問題と向き合い、根気強く解法を理解する。 ②習得した技法や解法を応用し問題解決に取り組む ③答案として洗練された表現を表出したり、独自の別解を編み出したりする。	●日々の課題を解き、提出期限を守る。 ●授業中、ポイントや気づきをノートにまとめる。 ●授業時の発問に対し自分の意見を述べ、指示された活動を積極的に行う。 ●集中力して授業に取り組む。
評価方法	定期考査、小テスト、課題、授業プリント、自己評価(振り返りシート)	定期考査、小テスト、課題、授業プリント、自己評価(振り返りシート)	課題、授業に取り組む姿勢、授業プリント、自己評価(振り返りシート)
割合	40%	30%	30%

■いつ、何を学ぶか(学習内容)

学期	学習内容
1学期	(数学Ⅱ) 2章 図形と方程式 1節 点と直線 2節 円 3節 軌跡と領域 3章 三角関数 1節 三角関数 2節 加法定理 4章 指数関数・対数関数 1節 指数関数 2節 対数関数
2学期	(数学B) 1章 数列 1節 数列とその和 2節 いろいろな数列 3節 漸化式と数学的帰納法 (数学C) 1章 ベクトル 1節 平面上のベクトル 2節 ベクトルの応用 3節 空間のベクトル
3学期	(数学Ⅱ) 5章 微分法と積分法 1節 微分係数と導関数 2節 微分法の応用 3節 積分法 (数学B) 2章 確率分布と統計的な推測 1節 確率分布 2節 正規分布 3節 統計的な推測

■何で学ぶか(教材)

教材
教科書 数学Ⅱ 数学B 数学C
補助教材 チャート式 数学Ⅱ+B+C
宿題プリント 基本と演習テーマ 数学Ⅱ+B, C

■どのように学ぶか(授業の方法／学び方)

授業の方法・学び方
1 始業前に学習準備をする 2 (状況に応じて) 小テストを解く 3 授業活動を行う ケース1 ①教師による例題等の解説 ②板書書写と内容理解 ③練習問題を解く ④公式や解法の理解が深化する。 ケース2 ①発展問題を各グループに提示する ②グループ内で切磋琢磨し、解法を導く。 ※必要に応じて教師の助言や他グループの考察を取り入れる。 ③解法を発表し、クラスで吟味する。 ④学んだ内容を確認しまとめる。

令和7年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
理科	物理基礎	2	B	2

■目標

日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか（目指す能力とその次元）

評価 の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させ たい基準	日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについての観察、実験などを行うことを通して、物体の運動と様々なエネルギーに関する基本的な概念や原理・法則の理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けさせる。	物体の運動と様々なエネルギーを対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の導出などの探究の方法を習得させるとともに、報告書を作成させたり発表させたりして、科学的に探究する力を育てる。	物体の運動と様々なエネルギーに対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度を養う。
評価方法	確認テスト、定期考査、小テスト、課題、観察・実験	確認テスト、定期考査、小テスト、課題、観察・実験	課題、授業準備、レポート、考査のやり直し、プレゼンテーション、自己評価
割合	40%	30%	30%

■いつ、何を学ぶか（学習内容）

学期	学習内容
1学期	1編 物体の運動とエネルギー 1章 直線運動の世界 2章 力と運動の法則
2学期	1編 物体の運動とエネルギー 3章 力学的エネルギー 2編 さまざまな物理現象とエネルギー 1章 熱 2章 波
3学期	2編 さまざまな物理現象とエネルギー 3章 電気 4章 エネルギーとその利用 終章 物理学が拓く世界

■何で学ぶか（教材）

・教科書：新編 物理基礎（数研出版）
・補助教材
新課程 新編 物理基礎 準拠 整理ノート（数研出版）
新課程 フォローアップドリル 物理基礎（数研出版）

■どのように学ぶか（授業の方法／学び方）

授業内では、映像教材や画像・音声のデータなどを用いて、学習内容と社会との関わりを深く理解できるよう工夫する。実際に演示が難しい内容でも動画を通して確認することで理解を深めるようにする。
「エネルギー」の観点を主軸に物理基礎を学ぶ中で、自らもエネルギーの循環の中に存在していることを自覚し、多面的な考え方を習得する。

令和7年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
理科	化学	2	B(理系)	2

■目標

化学基礎までの学習を踏まえて、化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか（目指す能力とその次元）

評価 の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させ たい基準	化学的な事物・現象についての観察、実験などを行うことを通して、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けさせる。	化学的な事物・現象を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈などの探究の方法を習得させるとともに、実験レポートを作成させたり発表させたりして、科学的に探究する力を育てる。	化学的な事物・現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度を養う。
評価方法	確認テスト、定期考査 小テスト、課題、観察・実験	確認テスト、定期考査 小テスト、観察・実験	課題、授業準備、レポート、 考査のやり直し、 プレゼンテーション、自己評価
割合	40%	30%	30%

■いつ、何を学ぶか（学習内容）

学期	学習内容
1学期	第Ⅱ章：物質の変化と平衡 第2節：電池・電気分解 第Ⅰ章：物質の状態 第1節：物質の状態変化 第2節：気体の性質 第3節：固体の構造
2学期	第Ⅰ章：物質の状態 第4節：溶液の性質 第Ⅱ章：物質の変化と平衡 第1節：化学反応と熱・光 第3節：化学反応の速さ
3学期	第Ⅱ章：物質の変化と平衡 第4節：化学平衡 第5節：電離平衡

■何で学ぶか（教材）

・教科書：高等学校 化学（第一学習社）
・補助教材：ニューグローバル化学基礎+化学（東京書籍）

■どのように学ぶか（授業の方法／学び方）

教科書の内容を暗記し答えるのではなく、現象の本質を捉えて理解できるようにしていく。問題演習を通して現象の理解を深め、他の生徒に説明できるようにする。
演示実験や実験動画を通して、化学的な事物・現象に対して主体的に関われるようにする。
タブレットを利用して視聴覚動画を多く提示する。
確認テストにより理解度の確認を行い、状況に応じた個別の振り返りを行う。

令和7年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
理科	生物基礎	2	B	2

■目標

日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか（目指す能力とその次元）

評価 の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させ たい基準	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての観察、実験などを行うことを通して、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則の理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けさせる。	生物や生物現象を対象に、探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法を習得させるとともに、報告書を作成させたり発表させたりして、科学的に探究する力を育てる。	生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度を養うことが重要である。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うこと。
評価方法	確認テスト、定期考査、小テスト、課題、観察・実験	確認テスト、定期考査、小テスト、課題、観察・実験	課題、授業準備、レポート、考査のやり直し、プレゼンテーション、自己評価
割合	40%	30%	30%

■いつ、何を学ぶか（学習内容）

学期	学習内容
1学期	序章 第1章 生物の特徴 第2章 遺伝子とそのはたらき
2学期	第3章 ヒトの体内環境の維持 第4章 生物の多様性と生態系 第1節 植生と遷移 第2節 植生の分布とバイオーム
3学期	第4章 生物の多様性と生態系 第3節 生態系の生物の多様性 第4節 生態系のバランスと保全

■何で学ぶか（教材）

- ・教科書：新編 生物基礎（数研出版）
- ・補助教材：リードLight ノート 生物基礎（数研出版）

■どのように学ぶか（授業の方法／学び方）

授業内では、映像教材や画像・音声のデータなどを用いて、学習内容と社会との関わりを深く理解できるよう工夫する。
また、身近な生物や生物現象に関係する社会問題等を調べ発表しあうことにより、これからの社会で生きていく現代人として必要な教養と道徳心、自然環境保全に対する態度等を養う。

令和 7 年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
英語	Logic and Expression II	2	B	2

■目標

- 「論理・表現Ⅰ」の学習内容を踏まえ、英語の特徴やきまりに関する事項及びその働きの役割を理解している。
- 一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを多様な文や語句を用いて話して伝えることができる。（話すこと）
- 日常的・社会的な話題について、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して書いて伝えることができる。（書くこと）
- 短めの対話やアナウンスを聞いて、詳細な情報を聞き取ることができる。（聞くこと）

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか（目指す能力とその次元）

評価 の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させ たい基準	目的や場面、状況に応じて、自分の意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して、詳しく話したり、書いたりして伝え合えることができる技能を身に付けている。	目的や場面、状況に応じて自分の意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して、詳しく話したり書いたりできる。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手・読み手など他者に配慮しながら、主体的・自律的に表現しようとしている。
評価方法	課題確認テスト、定期考査 課題テスト、小テスト、課題	課題確認テスト、定期考査 課題テスト、小テスト	課題、授業準備、レポート、やり直し プレゼンテーション、自己評価、 授業態度等
割合	30%	30%	40%

■いつ、何を学ぶか（学習内容）

学期	学習内容
1 学期	Lesson 1 I Love My Country! Lesson 2 The New Wave of Sports Lesson 3 The Future of Technology Lesson 4 Rediscover <i>Kabuki</i>
2 学期	Lesson 5 Will Our Lives change with AI? Lesson 6 Experience Madagascar' s Wildlife Lesson 7 Can We Go and Live on Mars? Lesson 8 Language and Society
3 学期	Lesson 9 Send Our Love to the World Lesson 10 Follow in Our Hero' s Footsteps

■何で学ぶか（教材）

MY WAY Logic and Expression II（三省堂）
ライトハウス英和辞典 第7版（研究社）
MY WAY 総合英語（三省堂）
総合英語 be 4th Edition English Grammar（いづな書店）
Next Stage 英文法・語法問題〔4th EDITION〕（桐原書店）

■どのように学ぶか（授業の方法／学び方）

教科書の各課は Part 1 と Part2 に分かれている。Part 1 ではトピックに関する会話の語彙やパターンを学び、Part 2 では Part 1 で学んだことを基に、スピーチをしたり、発表をしたり、レポートを書いたり等、Writing や Speaking の活動に広げていく。
Useful Expressions をマスターし、似たような文章を組み合わせることで1 年次より長い文章が書けたり、話せたりするように何度も練習しよう。

令和7年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
英語	English Communication II	2	B	4

■目標

- 短めの対話やアナウンス、事物に関する紹介を聞いて、詳細な情報を聞き取ることができる。(聞くこと)
- 事物に関する紹介や対話、簡単な図や掲示物、説明文や物語等を読み、詳細な情報を理解することができる。(読むこと)
- 読んだり聞いたりした内容について、自分の意見を言うことができる。(話すこと)
- 日常生活での話題について、ある程度まとまりのある文章を書くことができる。(書くこと)

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか(目指す能力とその次元)

評価 の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させ たい基準	各 Lesson の 本文の内容について、事実や自分の考えを整理し、新出語や Ineteraction 等の言語材料を用いて、本文の内容を再生したり、自分の意見を話したり、書いたりする技能を身に付ける。	質問の意図を理解し、学習した語句や文法事項を用いて自分の意見を話したり、書いたりできる。	Lesson の内容を理解し、ターゲットとなる文法事項を使って質問に答えたり、自分の意見を表現したりしようとする。 また、基礎学力をつけるために課題に熱心に取り組むことができる。
評価方法	課題確認テスト、定期考査 課題テスト、小テスト、課題	課題確認テスト、定期考査 課題テスト、小テスト	課題、授業準備、やり直し、小テスト 授業態度等
割合	30%	30%	40%

■何で学ぶか(教材)

■いつ、何を学ぶか(学習内容)

学期	学習内容
1 学期	Lesson 1 Dances Around the World Lesson 2 Katsura Sunshine—Making the World Laugh Lesson 3 Living with Nature—Takita Aska's Journey
2 学期	Lesson 4 Sesame Street Lesson 5 From Landmines to Herbs Lesson 6 Murals—The Power of Public Art Lesson 7 “Englishes” in the World Lesson 8 Deepika Kurup—The Science Behind Clean Water
3 学期	Lesson 9 The World's Poorest President Lesson 10 Living in an E-Society—The Pros and Cons

MY WAY English Communication II (三省堂)

マイウェイ総合英語(三省堂)

Data Base 1700 [3rd Edition](桐原書店)

Data Base 3300 [新版](桐原書店)

Tetra 2・3(啓隆社)

Listening Essentials 1.5・2(啓隆社)

総合英語 be 4th Edition English Grammar 30(第一学習社)

■どのように学ぶか(授業の方法/学び方)

英語コミュニケーションⅠにおいて学んだ内容を元に、さらに本文の内容を把握できるように、ただ単に授業を受けるだけではなく、自主的に予習プリントの問題を解く。

知識を深めていくために、単語等の小テストを実施する。そのための対策を自分で工夫し実践する。

令和7年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
保健体育	体育	2	全	3

■目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか（目指す能力とその次元）

評価 の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続できるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、お互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。
評価方法	技術・技能テスト	グループノートの活用 段階別練習方法の工夫と実践	グループ活動の実践 用具準備・片付け活動 審判等の係活動実践
割合	40%	30%	30%

■いつ、何を学ぶか（学習内容）

学期	学習内容
1学期	1 体づくり運動 2 選択Ⅰ【器械運動・ダンス】 （器 械：マット・跳び箱） （ダンス：現代的なリズムダンス） 3 体育理論
2学期	1 選択Ⅱ・Ⅲ【球技・武道】 （球技：ソフトボール・サッカー・バスケット・バレー） （武道：柔道） 2 陸上競技（長距離走） 3 体育理論
3学期	1 選択Ⅳ【球技・武道】 （球技：サッカー・バスケット・バレー・バドミントン・卓球） （武道：柔道） 2 体育理論

■何で学ぶか（教材）

現代高等保健体育 現代高等保健体育ノート

■どのように学ぶか（授業の方法／学び方）

<授業の方法> 各単元の特性と魅力を理解させ、基本的技能の向上の方法について、模範演技などを行いながら段階別練習法などを提示する。また、特性に応じたグループ編成を行い、生徒同士が主体的に活動できる場を提供する。 <学び方> 各単元における特性や技能上達及び安全管理の方法について説明を聞き、基本的な技能の向上を目指すだけでなく、他者を認め、個の特性を生かした表現方法を工夫しながら、積極的に活動に参加する態度を身に付けること。

令和7年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
保健体育	保健	2	全	1

■目標

保健の見方や考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか（目指す能力とその次元）

評価 の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させ たい基準	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を育てる。
評価方法	定期考査 保健体育ノート活用	グループワーク活動 保健体育ノート活用	授業準備 グループワーク活動
割合	40%	30%	30%

■いつ、何を学ぶか（学習内容）

学期	学習内容
1学期	<生涯を通じる健康> 1 ライフステージと健康 2 思春期と健康 3 性意識と性行動の選択 4 妊娠・出産と健康 5 避妊法と人工妊娠中絶 6 結婚生活と健康 7 中高年期と健康
2学期	8 働くことと健康 9 労働災害と健康 10 健康的な職業生活 <健康を支える環境づくり> 11 大気汚染と健康 12 水質汚濁、土壌汚染と健康 13 環境と健康にかかわる対策 14 ごみ処理と上下水道の整備
3学期	15 食品の安全性 16 食品衛生にかかわる活動 17 保健サービスとその活用 18 医療サービスとその活用 19 医薬品の制度とその活用 20 さまざまな保健活動や社会的対策 21 健康に関する環境づくりと社会参加

■何で学ぶか（教材）

現代高等保健体育
現代高等保健体育ノート

■どのように学ぶか（授業の方法／学び方）

<授業の方法> 各単元において、教科書・副教材に対応したパワーポイント作成やタブレットによる調べ学習など視覚的分野から興味関心を高める授業を展開するとともに、言語能力を育成するためグループ活動による課題解決活動を取り入れ、生徒が協力して課題解決に向けて思考判断することができるようになる。
<学び方> 各単元における知識を理解するとともに、グループワークの中でお互いに協力し合って意見を出し合い、課題解決に取り組む。知識については、教科書を中心とした各単元のキーワードを副教材を利用しながら学ぶ。